

# 天女山の想い出

2006年2月5日

久家 隆男

昔の話です。

1月下旬、松本に向かう途中で甲斐大泉から天女山に寄り道した。凍てつく林道の高みが増すにつれ、前方に赤岳や権現岳、後方に北岳や甲斐駒岳の巨峰が雪を纏って青空に輝き、贊沢な朝だった。

樹林帯に入ると、前日の雪でトレールは消えていた。しかし、登山道は見当が付くので心配ない。やがて、鹿と思われる足跡が道に沿って続いていた。途中で道が二分していて 地図にない道であるが、どちらを登っても山頂に着けそうだ。足跡は左の道を登っているが、右の道の方が幅広で本道のようだ。そこで、足跡に逆らって右の道に入ったが、意外に雪が深くて膝まで潜ってしまい、ラッセルに苦労しそうだった。引き返して左の道に入ると、踝程度しか潜らない。そこで、左の道を登り続けた。道はやや不明瞭だが、足跡を辿る限り確実に山頂に向かっている。やがて、山頂直下まで登ると、その足跡は急に横に逸れて谷に下っていった。もう案内は済んだかのように。

## 追記

1992年のことで、当時の天女山は今のような立派な道はありませんでした。